

学 校 名	実 施 月 日	ボランティア参加人数
厚南中学校	2月8日(木)	約40名

1 活動名

「厚南4地区連絡協議会まちづくり講演会」「中川をきれいにする会 河川浄化の研修会」

2 活動内容

2月8日木曜日に、「中川をきれいにする会 河川浄化の研修会」を1年生146名を対象に総合的な学習の時間として実施した。内容は、「中川改修整備・工事の必要性とその変遷」と題し、山口県宇部土木建築事務所より1名、郷土史研究会より1名の講師をお呼びして講演会を行った。その後、西宇部・厚南・黒石・原の4地区より参加の地域の方々40名程度と生徒が車座ミーティングとして、20グループ(1グループ9名程度)に分かれて中川について意見交換を行った。この度の研修会をとらえて、清掃活動の意義や中川を大切にしたい気持ちを持ち続けることの重要性を共有することができた。

1年生は、11月の中川清掃ボランティア活動の前に、中川の歴史についての簡単な研修と活動の意義について考える取組を実施している。そして、中川清掃ボランティア活動の経験も踏まえた形で今回の研修会に参加することができたため、研修や意見交換の取組を比較的「自分事」としてとらえることができた。また、本研修会後の2月23日(金・祝)に実施された「中川河口ヨシ原清掃活動」への有志参加者は、昨年度7名(うち1年生0名)に対し、今年度は24名(うち1年生20名)にのぼり、年間を通じた中川に関する学習が、生徒の心の変容に強く結びついているといえる。



3 子どもたちや地域の方の声(感想など総括)

中学生は、実際に清掃活動をした体験から、「ゴミが落ちていることには気付いていたが、実際に活動すると、思った以上にゴミがあることに気付いた。」や「ゴミを落とさないようにするにはどうしたらよいか考えるきっかけになった。」「中川の歴史を学んで、中川の大切さや役割が分かった。」「地域の方の考えを知ることができてよかった。地域の方の思いを受け継ぐことができたらいと思った。」「地域の方に意見を伝えることができてよかったが、伝えることの難しさも感じた。」といった感想がよせられた。

地域の方々からは、中学生が司会をする姿や、意見を述べたり地域の方の意見を熱心に聞いたりする姿を見て、この会が有意義でありかつ画期的であったとの内容のコメントをいただいた。一部紹介すると、「家族でも親戚でもない知らない大人と地域に関するテーマを話すことは子どもたちにとって初めてのことだと思うが、一生懸命さが伝わったし、貴重な経験になったと思う。」「中学生などの若い世代との交流は、地域が学校に関心をもつきっかけになる。」「中学生にも『自分たちも地域の一員だ』という認識をもってもらえたことと思う。地域づくりや地域活性化に向けて非常に有意義な会であった」というものであった。

今後この会を発展させ持続していくために、参加した行政担当者や地域の方々、教職員(生徒の振り返り資料持参)で振り返りを行ったところ、その中の言葉として、今回初めての機会ということもあり、「行政職員と中学生の間のフォローアップが不足していたグループが散見していたこと」「事前の準備や打合せ期間が短かったこと。」「生徒の様々なスキルの違いを考慮した大人の支援ができなかったこと。」などがあげられた。

今年度は、司会やまとめも中学生の手で行われたが、1年生ということもあり、うまくいかなかったところは多かったように思う。来年度は、「厚南校区にとっての中川」を中学校3年間の総合的な学習の時間の大きなテーマとしたい。そして、年次的にテーマについて考えたり、清掃活動の実践をしたりする中で、中学生として地域にどのように貢献できるのか、地域をどのようにしたいかなどのイメージをもたせたいと考えている。そのためにも、地域と交流する機会を増やすなかで、地域と学校が、めざす児童生徒像「ふるさと厚南を愛し、進んで活躍できる子ども」を共有し、何のための取組なのかを子どもを含めたすべての立場の人たちが意識することで、ボランティア活動を含めた学校地域協働活動がすべての人にとっての学びの場となるようにしたい。